

協定留学生・東西大 학교生の記憶の欠片



H26年度 協定留学研修を終えるにあたり

協定留学生・東西大学
発行日 2014. 08. 07

目次:

ミュンヘン大学 ダニエル・ベクテル	2
上海大学 王丹凝	3
上海大学 呉家喻	4
金剛大学 金ハンビ	6
金剛大学 金潤成	7
東西大学 金延俊	8
河南大学 嚴瑞蓮	9
河南大学 王少民	11
河南大学 趙伶俐	12
河南大学 陳楠	13
河南大学 胡書韻	14
東西大 학교 日本文化研修生	11

確かな記憶が残っている。あなた方が成田空港に到着した日の事を。自分の体よりも大きな荷物を抱え到着ロビーに姿を現し、一人一人の心が不安を感じていたことも。日本は近くて遠い国なのか、距離的な感覚がない。わずか数時間で日本の土を踏めるのだが初めて訪問する人には不安がある。言葉そして日本の国民性など今まで想像をしていたものが確実に現実になっていく不安感であろうか。

大正大学での授業は少人数で日本語の授業が行われた。言葉は、運用されることで生きてくる。彼らの多くは机上での学習が中心でコミュニケーションの道具として使われるのは、ここに到着して初めてのことである。教室とキャンパスで友達も多く出来た。知らない内に、友達が仲間になり、声をかけ始めた。そこには、もう言葉の壁も、国の境もなくなってきていた。いつも誰かと話しているみ

んなの姿を記憶している

大正大学には、留学生を囲み、互いの文化を理解し合っていく雰囲気がある。そのことを積極的に進めてくれる熱い心の持つ仲間がいる。留学生は、時々、小さな不安や心配事を抱えることが多いが、いつも大正生に救われている。

今回も多くの留学生サポーターが活躍してくれた。留学生が悩んだとき、壁にぶかったとき、いつでも声をかけてくれたのが彼等だった。そして、彼らとの誕生日会、学習会、一緒に行った鎌倉小旅行などなど。そして、一年という長くも短い留学が終わった。

思い出は、大正大学、大阪、横浜、鎌倉、北海道、歌舞伎教室、学科授業、日本語の授業と記憶に留まった。

そして、再度の再会を約束をして、それぞれの国に飛び立っていった。また会いましょう！と言葉にして。

大正大学で学んだことー東西大 학교日本文化研修生

韓国、釜山の東西大 학교から日本文化研修のために本校に4か月間という短い期間ではありましたが、充実した学校生活を楽しみました。昨年、大正大学から語学研修に行った際に歓待をくださった学生が、今度は大正大学に来て、参加者同士抱き合うように親交を深めていました。4か月間の間に、日本の文化を肌で感じ取り、両国間の親善大使として活躍してくれたことは勿論のこと、本校と東西大 학교の橋渡しをして下さいました。今後とも、この良好な関係が保てるように努力したいものです。



ここに集めた、それぞれの文面は、訂正をしていません。いくつかの間違った表現もありますが、本人が伝えようとしていることは、文字の隙間から伝わってきます。ご理解ください。

留学生として一年間東京にて

ミュンヘン大学 GERTENBACH DANIEL PETER

ほぼ一年前、東京に来たとき、何を期待するのか知りませんでした。大学はどうでしょうか？他の留学生や先生はどうでしょうか？外国の生活には速く慣れましょうか？そういう質問が頭に浮かべました。しかし、取り越し苦労だけでした。大学はいいし、先生も留学生の皆もとても優しいです。

私しか西洋人の学生がいませんから、初めに、ちょっと困りましたが、一般的にそれは問題ではありませんでした。もちろん、時々あまり分からないことがありましたが、大学の生活ではすべて日本語を使いましたので、どんどん語学力を向上させました。

これではもうすぐ日本人や韓国人や中国人と友達になりました。学校以外、世界中からの友達も作りました。それは、留学の一年間の一番重要なことだと思います。外国の文化には興味がありまして、あのようにいろいろな国について学んだことは多いです。でも、もちろん日本の文化について最も勉強しました。留学前に2回もう訪日しましたのに、文化に関する分かれなことがたくさんあります。日本の生活をナマで経験するために、国に住んでいて生活するというのが必要でしょう。旅行者として、日本の生活または日本の民族の考え方がどうだろうかあまり知りませんので、過去10ヶ月でこの国に関する知識を広げられました。

他の留学生と一緒にこの国を探って文化を理解するのは決して忘れないだろうことです。鎌倉、歌舞伎、江戸博物館、そしていろいろな祭りなどについては懐かしい思い出持っています。一緒に住んでいる寮の中でもよく遊びまして素晴らしい時間を過ごしました。

東京以外も、私は日本列島を探検しました。京都、大阪、伊勢志摩、高山、北海道を見たらその地域がすぐ大好きになりました。それから、帰国するまえに、沖縄などにぜひ行きたいです。

一年間では、そんなに多い経験をしましたのに、まだやりたいことは非常にたくさんです。12ヶ月はさっぱり足りませんでした！ですから、もうすぐ日本に帰りましょう！



私の留学生活

上海大学 王 丹 凝

光陰は矢のごとし。知らず知らずのうちに私の留学生活は終わりに近づこうとしている。

記憶を辿り、去年9月13日に日本に到着した時の様子が頭の中で蘇る。人生初めて飛行機に乗り、二時間を経て日本の大地を踏みしめたあの時の感触はまだ鮮明に覚えている。しかし、その感触は若干不確かで、自分が日本にいることを実感させることができなかった。迎えに来てくれたバスの中で、燃えるような夕日に照らされ、水面に映された東京タワーの影を見て私は初めて日本にいることを実感した。東京タワーは東京のシンボルとして世界に名を馳せていたが、「百聞一見にしかず」というのはまさにこういうことだろう。あの美しい景色は私の日本への第一印象なのだ。

この一年間の留学生活を通して、私は数え切れない程のことを学んだ。

日本留学の目的はもちろん、より流暢な日本語を話す力を手に入れることだが、言葉自体がその国の文化のキャリアヤーであるので、日本語力を磨き上げるには日本文化を学ばなければならない。日本での一年間、私は教科書や、テレビの中の「日本」ではなく、本当の日本を自分の体に通じて感じる事ができた。

来たばかりの時はまだ夏休み中なので、毎日街をブラブラしていた。その時の私にとって、スーパーの8時以降のセールも、百円ショップも、果物のバラ売りも皆初めての体験で、とても新鮮だった。

日本の物価は中国より高いので、母国ではキッチンすら滅多に入らなかった私が自炊生活を始めた。そして自炊する食材を買うための八百屋通いは私の日課になった。そこで、一番印象に残ったのは、日本人の笑顔だった。行きつけの八百屋さんのおばさんはとても親切で、いつも満面の笑みで「いつもありがとう」って言ってくれた、たまに世間話もしてくるし、あるいはまけてくれた。中国の八百屋さんはどっちかというところと割り切った気持ちで商売をしていて、世間話をしてくることはまずないだろう。私は日本人の人情味溢れる商売の仕方には感動、また感心もした。

学校では、日本語を話すトレーニングを受けていた。この授業を通して、正しい日本語だけでなく、自然な日本語を勉強した。自然な日本語と言うのは、まず日本人の習慣、日本人の文化から学ばなければならない。つまり、授業の中では、私たちは日本文化を学んでいた。

日本で、私は人生初めてのバイトを経験した。バイト先で、私は社会人としてあるべき態度を学んだ。日本人が仕事に協力し合うことをとても大切にしている、お客様を一番先に考えている、そして何よりも、仕事に対して全力で臨む姿勢を示している。こういった日本人の仕事ぶりに最初は圧倒されっぱなしだったが、やがて、自分もそれに従うようになった。

そして、日本文化といえば、日本のお祭りを欠かせない。私は学校のお盆祭りにいった、そこで初めて浴衣を着て、初めて盆踊りを踊った。そこでたくさんの「初めて」を体験した。面白かったのは、盆踊りの動きは畑作業と全く一緒だったことだ。こういうところから、農耕社会だった日本が農耕をととても大切に思っていることが垣間見える。

この一年を通して、私は生活、勉強、仕事、色々な面において日本文化を学んできた。そして、日本はとても優しい国だということと日本人は真面目で、素朴で、思いやりのある人たちだということをも身をもって感じた。

中国と日本二つの国として文化の差が大きい、しかしながら、中国と日本は同じアジア圏の一員として、お互い通じ合っている。この一年間で学んだ日本文化をもって微力でありながら、中国と日本の架け橋になれたらと思う。

帰国を間近にして、今この時、私の気持ちはとても複雑で、他人事で言い表せないものである。未練、焦り、期待、不安、色々な感情が入り混じって今の私の気持ちとなった。しかし、今の気持ちがなんであれ、この一年間がとても充実にごせたことに変わりはない。そして、この一年間は私にとってかけがえのない大切な宝物になるだろう。



人と人の絆：一期一会

上海大学 呉 家喻

あっという間にもう日本に来てから十ヶ月経ちました。帰国直前の今の私はなんと複雑な気持ちを持っている。この十ヶ月間で、一度も家に帰ったこともないから、両親を恋しいし、中華料理も食べたい。一方、まだファッションとグルメの集中地の日本を離れたくない。

ずっとこの文章を書きたかったが、今本当に書こうと思ったら、どこから書けばいいかわからなくなった。この一年間未満の間は、様々な人と出会ったり、いろいろなことを経験したり、悲しんだり、楽しんだりして、充実で忘れられない人生の段階だった。

最初のホームシックからだんだん慣れてきたまで、ずっと考えていたのは自分は何のために日本に来たのか。日本に来ていったい何をしたいのか。どんな経験をしたら帰国する時後悔はしないのか。

考えてばかりだったらどうしようもないから、やるしかない。ただ、やりながら自分にこの質問を聞きつづけなければならない。特に迷った時、日本に来るその目的を改めて意識すると、歩みすべき道はまたはっきり目の前に現れる。

今は、後悔することはないと言えるだろう。

まずは日本語の上達することだ。日本に来る前に、これはもっとも純粋で一番の目的だった。学校で、留学生のための語学授業でも、日本人の学生と一緒に取った授業でも、積極的に投げこんで、できる限り多くの単語を覚えたり、以前聞き取れなかった文章を吟味したり、パーフェクトではなくても発言したりして、一限一時間半の時間が長いと思ったことは一度もなかった。

もちろん、日本に来た以上勉強できるところは学校に限っていない。どこに行っても、日本語が流れているし、誰と話しても、日本語でなければ通じられないからだ。たぶん、思考思惟も完全に日本語のバージョンになっただろう。母国語ではない言語を話そうとすると、考えても考えても、思った

ことをそのままちゃんと伝えられない場合は少なくはない。でも、自分の口から意味を表さなければ問題を解決できない。下手でも言うしかない。こんなことを繰り返ると、だんだん自然に話せるようになってきた。もちろん、思ったほど上手になっていないが、少しでも進歩があれば、前に進む力になるのではないかと。

もう一つは精神的な成長だ。今振り返ってみると、日本語よりこれはまさに一番大切な経験だった。

私たちは日本に来てから三ヶ月後にバイトの許可を大正大学からもらった。許可だけではなく、先生から有力な支えもいただいたため、私たちは安心してバイトできるようになった。それは大正大学にいろいろ感謝すべきことの一つだ。

単純作業をやりたくなかったし、バイトをしながら日本語を上達になりたかったため、最初にネットで理想なバイトを探すのは他の留学生より工夫をした。断られつつも、諦めずに最後まで探していた。やっとある有名なファッションのブランドの洋服店に採用された。ちゃんとしたオフィスで、三人の面接官の前に、自分の長所と念願などを述べた時のどきめきはまだ覚えている。初めて渋谷本店に入った時、その広さとおしゃれさに驚いた感動もまだ覚えている。なぜそんなに有名な洋服店は完璧な日本語で接客できない私を採用したかということ、中国語と英語を話せる海外のスタッフが必要だったからだ。

最初の新鮮感と接客の楽しさに囲まれながら楽しい何ヶ月を経た。でも、だんだんやさしかった先輩たちがますます厳しくなってきた。店の名前が大きいからかもしれないが、アパレルとしての基本から、日系企業の細かいルールまで、すべて完璧にやらなければならない。ほとんど毎日怒られていた。何回か一人でフィッティングルームで泣いたのはもう覚えられない。

でも、そこで諦めたら完全な失敗ではないか。自分は不足があるからこそ叱られるのではないか。90%できたらすぐ満足すると、永遠に100%できることに辿り着かないだろう。叱られては、切り



替えて自分を改善してきた。

入ったばかりの子供っぽく、勝手に判断し、言い訳だらけの自分は今はもうその店の一人前の中堅スタッフになった。後輩もどんどん入ってきたから、他人に頼られる達成感もたっぷりだ。

もちろん、そこに、日系企業の特徴や日本人の仕事方式も十分に把握してきた。これもきっと以後の仕事のためになると思う。

精神的な成長はバイトから得ただけではない。初めての一人生活だから、どうやって周りの人たちとうまく付き合うのか、どのように寂しさとむなしさを駆け出すのか、そんなことを考えなければ、留学生活は絶対円満に終わらないと思う。もう家族に守られている子供ではないから、何があっても、自分自身を反省して、積極的に解決方向に向かいべきだ。痛まない、悲しまないと、自分はどんな人なのか反省しなくなるだろう。晴れている日には虹が現れないように、順調な生活には立派な成長はできない。いろいろぶつかったりしたから、今はちょっと大人らしくなったと言えるだろう。

三つ目は自分の視野が確かに広がってきた。旅とグルメが大好きだから、箱根、富山、金沢、京都、大阪、神戸、富士山を周ってきた。これからのスケジュールに、北海道、伊豆、新潟と長野も入っている。一人の旅があっても、友達との旅があっても、周密なプランをしてから行く旅があっても、何にも準備しなくてすぐ出発する旅もあった。日本の多彩な風景を満喫しとともに、違う地域に住んでいる人々の生活スタイルとそこから生まれた価値観も分かってきた。世界が広がってきたから、心も広がってきたし、価値観も変わってきた。慣れてきた生活に冒頭しすぎると、未知の世界のすばらしさは永遠に目に入らない。旅行が好きな理由はその中には風景だけではないからだ。

そのほか、バイト先には、学校には、多くの友達が出来てきた。家に招いて中華料理を作ったりあげたり、飲み会とかカラオケを行ったり、一緒に外で美味しい日本料理を食べたり、お互いに悩みや恋心を話したりして、楽しい日々を過ごしてきた。先生と一緒に鎌倉見学、歌舞伎見学、江戸博物館見学をして、日本の文化もだんだん心に入ってきた。

日本で一年間の経験はこのたった二枚のA4には全然入らない。そして、思ったこと文字で表れないのがいっぱいあって、自分しか感じられない。私はこの貴重なチャンスを心より感謝する。この貴重な思い出を心の中に温存する。



一年間の成長

金剛大学 金ハンビ

日本に来て1年も経った今、頭にいろんなことが浮び上がります。とても大変だった時もある一方で、片方では死ぬまで忘れられないくらい幸せだった時もあります。今になって考えてみると、1年は決して短い時間ではありませんでした。

日本での1年は、今まで過ごした20年の中で一番成長できた年ではないかと思います。私はここで将来の仕事を決めたわけでもないし、ずっと楽しい経験ばかりだったわけでもないです。しかし、我が国の韓国が日本とどう違って、日本から何を学ぶべきなのかについて正しい答を得られる機会でした。ここで得た答は、これからの私の人生に役に立つ財産になると思います。

私は韓国でもいろんな国々から来た外国人の友達が多かったです。いつも彼らと付き合い、自分は外国については何でも自身があると思っていました。「たった1年の留学で何を変えられるか」と思い、遊びの気持ちで日本に来たのも事実です。そして、それが大間違えだったというのが分かった時は、「今までの自分はどれくらい愚かな人だったのか」というところまで思いが付き、とても落ち込んでいました。

でも、こういった時期を契機に「先進国と呼ばれる日本で自分が持って行けるのは何なのか」について確信を持つようになり、私が味わった日本の全てのものからいろんなことを考えられるようになりました。

私が日本からは是非学ぶべきだと思っているいくつかの中で一番は、「約束をしっかりと守る社会」です。「今の日本は前ほど約束が守られていない。もう日本はダメだ」と思っている日本人も多いでしょうが、いつも他人のことを考える日本人の国民性が外国人に与える感動は非常に大きいです。例えば、私のスイカを電車で忘れてきた時、なぜか「きっと連絡が来るだろう」と思われ、そのまま20分くらい駅の中で連絡を待っていたことがあります。そして、予想通りに駅から連絡をもらった時の気持ちは今まで忘れられません。日本の正直さを信じている私には、その答えをちゃんと言ってもらった気持ちでした。この経験以外にも、キッチンの内部がお客様に全部見られる形のお店や、アルバイト先で多くのマニュアルがしっかりと守られていたことなど、日常のどこからでも日本だけの正直さは感じられます。時々、ルールに縛られてゆとりのないこの国にあきれた時もありましたが、今考えてみると、そんなことまでも我慢できるくらいに日本人は心の余裕を持っているのではないかと思います。大勢の人が集っている場所で秩序が乱れない理由もここにあるのではないのでしょうか。

日本に来てこういった先進文化を学んでのとともに、一方では今まで生きてきて初めての経験を通し、大人として知るべき常識や世界共通の習慣もたくさん学べました。韓国でも何年間も家族と離れて療に住んでいましたが、一人で携帯を買いに行ったり、テレビの送信契約を解約したり、または保険料のことで区役所に直接電話を試みたりするのは全部生まれてはじめてのことでした。何でも一人でしなければならない現実が大変で、何か一つでも問題が起こったら一日中心配ばかりしたことも少なくありません。療に何年間も住んでいたとして、自分の生活全体を自分で背負えるのではなかったのです。しかし、日本での一人暮らしにだんだん慣れてきて、どんな問題がおこっても焦らずに自分で解決できるようになりました。これからも学ぶことは数えられるほど多いと思いますが、1年前と比べると大人により近くなった気がして嬉しいです。

自国と全然違う文化を持っている国で毎日を過ごすのは大変でもありましたが、だんだんこの文化を身につけていく自分の姿を見ると、日本に来てよかったと思われたいです。韓国に帰ってここで学んだマナーや文化、知識を忘れずに、国にいる人々にも伝えてあげたいです。また日本に来れる機会ができれば、その時はより深く日本の文化と言語を研究したいと思っています。



おもしろかった東京の一年

金剛大学校 金 潤成



2013年9月13日13時私は成田空港に到着して私の波乱万丈な留学生活は始まった。そして2014年7月23日この学習成果レポートを書きながら私の留学生生活を仕上げようとしている。

2013年8月まで軍隊にいたため、大正大学に交換学生をこられたのは奇跡だったとしか表現できない。交換学生合格から準備過程まで順調ではなかった。金剛大学教授たちが積極的に助けてくれなかったら私が日本に来るのは不可能かもしれない。

そして結局2013年9月13日、私はキムハンビと一緒に仁川発成田行きの飛行機に乗った。その当時、日本はどの地域よりも暑い、私の留学生活の期待感も列島の熱気のように熱くなっていった。留学生活に対する恐怖よりは期待心と自信に満ちていた。

成田空港に到着して桜井先生に会ってからもう留学生活が開始したことを感じる事ができた。そして日本語が上手な中国人とハンサムな西洋人との初めての出会い。その当時に不思議にだけ感じられ、今のように仲良くなるとは考えもしなかった。そして初めて到着した東十条グローバルライフ出て1年間生きていく寮である。広くはないが住むのに不便はない、一人で料理も作って食べる場合もあるし、テレビやエアコンなどを全部用意ができていて便利だった。

いよいよ学期が始まっており見えなかった現実に壁が現われた。それは、まさに日本語の実力だった。私はひらがなと基本的な対話できる実力しか出来ず授業すら理解できない実力だった。しかし、1年間小野先生、近藤先生、山内先生などに大正大学で日本語を習いながらだんだん日本語の実力が向上していった。

それだけでなく、日本第1の仏教大学である大正大学で私は私の専攻である仏教の授業も受けられた。大学生と一緒に聞いた基礎仏教の授業は難しかったが大塚教授が簡単に説明してくれて役に立った。特に韓国では受けることのできない仏教美術、仏像の科目(仏画を描くこと、仏像修復すること)は本当に面白かったし、または経験できないいい授業になった。

今思えば留学生活しながら得たものがあまりにも多い。日本語、留学生の友人、優しい先生たち、いい経験と思い出たちなどだけでなく、自分自身も自信を持つようになった。特に1年間一緒に勉強して遊びながら仲良くなった留学生の友人。本当に忘れられなさそうだ。

1年という短くない時間が瞬間のように過ぎ去ってしまった。たとえ今は別れなければならないが、逆に別れさは、次にまた会う約束の始まりだと思ってる。日本留学生活で会った縁といつまた見るかは分からないけどきっと会いたい。

1年間ありがとう^^



留学生活の一年

東西大学 金 廷 俊

日本へ来たのが9月の中旬、今は7月の初旬。もはや日本での生活は10ヶ月を見ている。日本に来る時、自分が何を考えながら来たのかはもう覚えてない。たしか何かを変えようとはしただった。

だが今は変えようとしたものが何だったのかも覚えもない、思い出すのも必要もないと感じている。日本に来て早々10ヶ月だというのに韓国にいた時とさほど変わりはない。普通に学校行って授業をとり、終わったら家にもどり、自分のことをする。どこかに遊びに行くことも少なく、行ったところでなんの感興もない。確か日本に来た時には期待していた。韓国と違う社会であると思ったから。でもそれも数ヶ月で終わっていた。人が住むところはどこへ行ったってそこまでの変わりはないと思ったからだ。その上、韓国と文化がそこまでの違いがない日本であるとそれは言うまでもない。

日本に来た理由の一つは自分が変わるかであった。でも今の自分を見てはなにが変わったのか分からない。全然変わってないかも知らない。変わろうとする努力が全然なかったとは思わない。だが結果としてはそこまでのわりは見えない。何が問題だったのか、問題なのかも知らず時間が過ぎた。

もちろん得たものが何一つないわけではない。一人暮らしをしながら人が一人で住むのがどれぐらい大変なことなのかは分かった。楽でないことは当然で食もろくに出来ない。掃除や洗濯も大変である。今まで掃除や洗濯を気にしてなかったため、何からしたらいいか、どうすれば効率的なのか、もっと楽では出来ないのか。色々なことを考えながら自分なりの方法を探す。そうやって自分がどんな人なのか少しは分かるようになった。正直に言うと自分は掃除が苦手だ。正確にはしたい気がしない。汚れていても目に見えないくらいに適当にしておい、物の整理のしようとしなない。なぜそこまでしておくのかと思うこともあるが、片方では別にいいじゃないか、面倒くさいからほっとけ、後でするだろうと思ってもいる。それを換えようとはするが、そう簡単では変わらないようだ。

日本へ来て、一人暮らしをしながらまた思ったのは自分は意外とホームシックとは遠い者であることだった。家族と離れ、友達も会えないと言うのに別にそれがどうした。と思っている自分がいた。普通家族のことを思ったり、友達のことを思ったりするのが普通の人であるはずなのに自分にはそういう感想がそうそう思い浮かばない。彼らは彼らでなんとかしているだろう、連絡さえ取ればいいだろう。そう思う自身がいた。自分がそう冷たい人なのか、それともただそう思うことさえ面倒くさいと思っているのかは分からないが、ここ日本に来て自分以外の人の関係をどう思っているのかを少しは分かった気がした。

日本での授業は大した不満はなかったが、選択に自由があまりなかったものが不満であれば不満であった。むろん理由あって禁じられてはいるだろうが、不満を持つことは仕方ない。あの時、授業をもっと取ったらどうだったんだろうと今も思っている。

でも取った授業は十分価値あるものであって、色々なものを学んだことに変わりはない。それらは日本に関心を齎すに十分であり、もっと知りたいと思う気持ちは消えない。

私はこの特別な一年間を無駄にしたかも知れない。より遠くへ行き、より色々なものを目にするべきであったかも知れない。しかしこの一年で自分がどんな人なのかもっと分かり、人が自主的に変わることは難しいことであることを分かった。小さいと言えれば小さいかも知れない。だけど自分で満足出来るならそれで良かったのではないと私は考える。



まだ見ぬ日本へ——勉強の旅

河南大学 厳 瑞 蓮

去年9月13日日本に来たばかりで何もわかりません。

午後四時頃、1時間遅れて、一行の五人は飛行機で上海から成田につきました。下手な日本語で優しい先生たちと挨拶して、冷たい地元の茶飲料をもらって、寮に行くバスが動きました。窓のガラスを通して、緑の木、白い雲、橋の下の川と斜めの岸、遠いところからの電車道交差点の警報声、信じられなく、私はアニメと同じような場所にきました。最も信じられないのはここは日本の首都—東京です。はじめてですが、東京での一切は新鮮な雰囲気満ちています。

もしこの一年日本に来ないと、今の私は一体どういうふうな様子ですか。最近その考えはしばしば頭の中に浮かんでいます。

中国で「勉強は学生の天職。」という諺があります。留学生活にも様々な勉強を組み合わせています。中国で授業を受ける時、日本語を使う自信がなかったです。ただ読むことに対しても怖がって、いつも震える声で答えました。でも、日本に来て、授業は全部日本語が無論です。先生は日本人で、クラスの全員も日本人以外の外国人です。その場合で、日本語しかを話せないでしょうか。そして、言語のコミュニケーションの意義を感じました。先生と自分の意見を交換すると、言葉で伝えなければならないです。韓国とドイツの方と友達になって、仲良くしたいと、言葉で交流しなければならないです。それを感じて、私は勇気を出して、みんなと話し合っ、昔の自分より成長できました。一方、一年間の授業はたくさんの発表があります。毎回違うグループを分けて、長い時間で準備しました。テーマの選択、材料の収集、レジュメの作り方など、先生が色々な勉強方法を教えて頂きました。グループの発表は最も複雑ですが、担当部分の協力や内容の決定は違う国からのメンバーに対して、かなり難しです。だから、チームワークのやり方や重要性を気づきました。そして、各国についての知識も出てきて、

日本、韓国とドイツの紹介を比べて勉強できました。元々はそういうことをやったことがなく、特に国別の方との交流ができません。

特に第二学期の授業は深い印象を残ります。まず学部の学生達と二回鎌倉に行きました。それは日本の学校の見学活動と言われて、確かに自分の目で見てから感じたことは写真やビデオからののが違います。そして、日本人の学生と一緒に受ける授業も出てきました。特に国際教育論という授業が大好きです。この授業はただ先生の話ではなく、学生と遊びながら、実践的なワークショップをしました。自分の興味と協調力が生かすようにチームワークを完成しました。本当に勉強になりました。

そして、この一年で生活方面も様々な心得を得ました。実は心得といえば、発見ということですが。まずはゴミの分類です。燃えるゴミ、燃えないゴミ、ピン、ガンなどの種類で秩序的に捨てるのは普通の日本人が知っている日常知識です。その上に、ゴミが捨てる時間も厳しく設定します。例えば、月曜日は燃えるゴミで、火曜日は燃えないゴミです。それは日本に来てから知ったことです。本当に環境に対して、それはかなり有意義なことです。もし人々はそのようにして、世界の環境問題がなくなる可能性があるかもしれません。そして、もう一つの発見はバイトをしているラーメン屋でのことです。お客様が食事したあと、



店員が「ありがとうございました。」と言いながら、お辞儀をするのは無論だと思いました。でも、店長はまずいうことで、あとはお辞儀をします。そして、手の置き方必ず上は左手下は右手です。一体どういう意味があるかという質問で、店長は店のお辞儀を私に説明して頂きました。日本でお辞儀と話は同時にすることがダメです。そして、昔の武士はいつも右手で刀を使えて、戦うということです。だから、左手は右手の上にするなら、大事な右手を覆って、相手に友好的印象を与えるでしょうか。

これは自分の生活から学んだことですが、授業の時も武士についてのことを詳しく勉強しました。一方、バイトの経験で自力の重要性も感じました。自分が稼ぐお金は生活費を除いて、使い方が自分で決めます。東京以外まだ見ぬ日本はたくさんのところがあって、休みの時大阪と京都に行きました。大阪で情熱な人からの案内をもらって、京都で深い古都の魅力を感じました。旅行も勉強の旅と思って、地元の風俗習慣にも了解できました。

とにかく、この一年は本当に勉強の旅のような経験だと思えます。学習にも、生活にも、自分が成長させたことが言い切れません。そして、色々な人々を会ったが、人生の幸せだと思えます。この一年間本当にお世話になりましたが、日本で会った友達と先生に感謝したいです。



留学生として一年間東京にて

河南大学 王 少 民

時の経つのは本当に早いものです。日本に来てからの一年間、あっという間に過ぎてきました。この一年間、先生と先輩からいろいろお世話になって、ありがとうございます。今思い出すと、懐かしく素晴らしい経験です。いろいろなことが分かるようになって、本当に勉強になりました。

日本での一年間早いですが、いろいろなことを体験しました。日本についてのことはまだまだなんです。一年間前の自分よりずいぶん良くなりました。今その時の自分を思い出せば、本当に恥ずかしいです。何も分からなかったのが、青二才と言われても過言ではありません。下手な中国語っぽい日本語で人と話をかけて、身振り手振りをして相手はまだ分からないことは何回もあります。その思いが辛かったです。なぜみんなは人間なのに、相手とのコミュニケーションがそんなに難しいのか。言語が違うと、お互いに理解するのが不可能なのでしょう。何回自問していた間に、日本語を勉強したい意欲も高くなりました。

初めて来たとき、なんでも目新しい物なので、気持ちが高ぶって、いつも出かけてブラブラ歩きたかったです。その時、東京のたくさんの有名な観光地を訪れました。浅草寺、明治神宮、新宿御苑などは全部行ったことがあります。いろいろな感想がありますが、一番大きいのはやはり自然の美しさです。特に六義園では、日本にはあんなに美しい自然があるとは思わなかったです。そして、東京にあるのはもっと不思議だと思います。こんな地価が高いところで大きい公園を立てるのは想像できません。日本人は自然に恵まれているうちに、自然を尊重して保護する気持ちが本当に強いんですね。これは公園にいる時だけではなく、日常生活の中でもよく感じられます。例えば、ゴミを分別する時、本当に面倒くさいで、そんなに細かいところまで至る必要があるかどうかにもはっきりしないです。でも、毎日きれいな街で歩く時、日本人の真面目に感動します。毎日の生活に対してもこんなに真面目で、ほかの場合はもう言うまでもないです。自分のいる環境が自分でちゃんと守る日本人の強い責任感には感心しました。

また、東京での生活は本当に便利です。図書館やコンビニなどは人々の生活の中で大きな役割を果たしています。そして、電車に乗って、どこへもいけるそうです。山手線は東京を回って走ります。毎日乗る人は370万人がいるそうです。本当にすごいです。

この一年間、いろいろなことを体験しました。もちろん、日本語がまだ下手なので、とても辛かった思いもあります。その時、友情の大切さが気がつきました。ほとんどは初めて、何もわからなかったのが、先輩や友達などいろいろ手伝ってくれて、本当にお世話になりました。そして、新年の時にも一緒に食事をしたり喋ったりして、ふるさとを懐かしく思う気持ちが少し少なくなりました。日本での留学生活は辛いとは言えませんが、ひとりで頑張るのはけっこう大変です。もし二三人の友達がいいたら、何よりも助かります。

脳裏には忘れられない鎌倉見学旅行や素晴らしい歌舞伎などが浮かびます。いろいろ勉強になって、いい経験でした。日本人の学生さんと一緒に喋ったり、日本の文化を感じたりして、日本語の勉強はもちろん、日本の文化についても深い理解ができました。

今考えれば、日本へ留学に来た目的は日本語の勉強より、むしろ日本文化の勉強と言ったほうが相応しいかもしれません。日本と中国は一衣帯水の隣国ですが、両国の間にはまだいろいろな誤解があります。それはなぜでしょうか、お互いに相手の文化を理解できないからです。人々は国のメディアが伝わった情報に騙されて、自分の目で確認しなくて、あるいは確認できないため、盲目的に信じます。これは本当に痛い状態です。我々は留学生として、自分の身で感じた日本を家族や国の友達に伝えて欲しいです。力が小さいですか、何か役に立つ期待で頑張ります。

一年間は短いです。この一年間で体験したことは一生の一番素晴らしい思い出として大切に保存します。これらの経験はこれからの人生にもきつと役に立つと思います。日本に留学のチャンスを掴んで、本当に幸運です。皆、この一年間いろいろお世話になって、どうもありがとうございました。



私の留学生活

河南大学 趙 伶俐

今でも目を瞑ると、その日、空港を出たとき見た青空が、まだ目の前にキラキラしているそうです。

2013年9月13日、三時間半を経て日本の地面を自らの足でしっかり踏みしめた時、私のハラハラした気持ちはやっと落ち着きました。初めて飛行機に乗るときと同じ、日本での生活がすぐに現実になると考えると、自分の興奮する気持ちを抑えられませんでした。同行のクラスメートを見ると、みんな同じ興奮しているようでした。

日本での一年間は自分の日本語力にすごくいい影響があります。最初は文法では理解しているのに、言葉が口から出てこられませんでした。三、四ヶ月ぐらいを過ごして、何となく自分の日本語力に変化が出る感じがしました。それから、積極的に日本語を話しました。今は、日常会話はほぼ大丈夫です。

ですが、日本語力の向上に比べて、より重要なのは人生の経験が豊になることだと思います。

この一年間に、日本人の優しさを深く感じました。バイト先の皆さんが熱心に仕事を何回も教えてくれました。私が急用でシフト通りに入れなくなる時も代わりに入ってくれました。そして、よく親切なお年寄りのお客さんに「がんばってね」とかで励まされました。すごく心が温められました。また、生活といい、勉強といい、非常に細やかな問題であっても、先生方がいつも熱心に助けてくれました。どんどん心強くなりました。

日本のサービス業界の丁寧さは世界的に有名なのですが、やはり百聞は一見に知らず、アルバイトをしているうちに、または自分が買い物をするとき、どんどん日本のサービス業界の「顧客第一」という精神を覚えてきました。店員さんの笑顔がいつも素敵で、おつりを返す時もちゃんと一枚ずつ数えながらお客さんに渡します。包装のある商品の場合ちゃんと中身を示すサンプルがついています。サンプルがほとんど実物と同じように作られます。それに、食べ物だったら、試食できるものもよくあります。ほかの商品は普通テスターがあつて試すことができます。日本での一年間には店員さんがお客様と言う争うことは聞いたことが全然ありませんでした。

そして、日本人の計画性にも印象深いです。学習と

いい、生活といい、仕事といい、日本人はいつも事前に予定を作ります。手帳というものは日本人の必需品と書いてもいいでしょう。おかげさまで、私たちも予め予定を手帳に書いておく習慣を覚えてきました。日本人は計画を急に変更するのが嫌うそうです。私はアルバイトをしているうちにそれを分かりました。

もう一つ印象に残ったのは日本の学生さんたちの実践能力です。それは大学祭のことです。前はアニメやドラマで見たことあるが、やっと自分で体験できました。楽しかったです。大学祭の前、学生さんたちが学校のあちこちに集まって、相談したり、看板と道具を作ったり、大学祭のためにいろいろ準備しました。それを見て、日本人の集団主義とチームワークにも感心しました。

自分の国から出るこそ、母国への深い愛情を意識できるとある先生が言った通り、日本に来てから自分の行動で母国に恥をかからないように覚えてきました。同行の中国の友達はいつもお互いに授業と宿題の提出またはクラス活動に遅刻しないように注意しました。みんなバイト先でしっかり働いて、頼りになるメンバーとほめられました。

日本での生活はたくさん思い出が残りました。いろいろな国の人との付き合いも私の国際観の形成に重要な意味があります。日本に一年間を暮らしたあと、受け入れ態勢で異文化を感受するのが重要なのは分かりました。世界は広いです。広い心を持たなければ、いつまでも井の中の蛙だけです。今は振り返る



と、日本に来たよかったですと思います。ただ一つ信じているのは、日本との絆がこれからです。ですから、私は言いたいのは「さようなら」ではなく、「これからよろしくお願いします」です。

長いようで短い一年間の留学生活

河南大学 孫 楠

梅雨季節がもうすぐ終わり、真夏も近づいてきます。それとともに。私は日本へ来て、そろそろ一年間になりました。この長いようで短い一年間の留学生活を振り返って見れば、楽しいこともあり、残念なこともありました。

昨年9月13日は私にとって重要な人生の転換点と言えるかもしれません。自国を離れて、ゼロからの新しい生活が始まりました。みんなと一緒に空港に着いた時、心の不安は今も覚えています。迎えるバスに乗った時、窓側の景色を見て、新しい生活の期待もまだ忘れていませんでした。一年間は人生にとって本当にわずかな時間ですが、この一年間の留学生活でたくさんの思い出を作って、自分の成長もできて、まさに私の人生に大きな変化をもたらしました。

まずは勉強の方面です。秋学期で留学生だけの授業です。大野先生は私たち留学生向けの多くの授業を担当していました。エピソードのやり方、レジュメの作り方、メールの書き方、面接の注意点など、いろいろな授業を通じて、多くの新たな知識を身に付けました。先生はいつも多くの資料を配ってくれて、授業中、一つの話は日本、中国、韓国とドイツ、四つの視点から分析しました。これはある知識の勉強ではなく、他国の文化も理解することもできました。一方で、自国のことをもう一度考えられます。春学期で留学生だけの授業ではなく、日本人学生と一緒に授業を受けました。特に「国際理解教育論」という授業でいつもワークショップをして、みんなはグループを分かれて、様々な国際問題を考えて、かなり楽しかったです。それは中国の大学と全然違う雰囲気を実感しました。真実な日本の教育を受けて、自分が授業の受け身ではなく、参加者という身分をよく認識しました。教育を受ける目的は自分意識に基づいて、批判的な精神を持って、敢えて質疑を提出して、独立的な思考ができるということも認識しました。日本の教育に興味を持って、将来日本の大学院に入りたいです。大野先生と桜井先生もいろいろなアドバイスをしてくれて、本当に感謝します。



またはこの一年間で、いろいろな景色を見て、いろいろな人と出会って、教科書での日本ではなく、真実な日本と付き合いました。研修コースで鎌倉と江戸東京博物館へ行きました。「長谷の大仏様」として親しまれる鎌倉大仏の足下で満開の桜を見て、銭洗弁財天でお金を洗って、明月院ではじめてきれいなアジサイを見ました。春休みで大学の先生に会うために茨城へ行き、広い太平洋を眺めながら、地元の魚で作った美味しい料理を頂きました。はじめて海の中の岩礁に建てられている神磯の鳥居を見て、とても神聖です。夜に太平洋を面しての化石海水露天温泉に入って、心身を癒されました。先月、京都と大阪も訪ねに行きました。京都のたくさんのお寺を訪ねて、大阪のたこ焼きとかの名物を食べて、関西の文化も感じました。先日、大学のキャンパスで開催された鴨台盆踊りも参加しました。はじめて浴衣を着て、おばあさんに引かれてみんなと一緒に伝統的な舞踊を踊りました。すごく楽しい体験だと思います。いろいろな見学を通じて、日本の自然、文化を感じたりしていて、将来もたくさんの所へ行きたくて、もっと多くの景色、人と出会いたいです。

最後は、この一年間で自分の成長もできました。日本に来る前に想像していたのと同じように、留学の生活は決して容易ではありません。自炊とか、バイトとか、生活のストレスなどは国内と比べれば、大きくなったのは当たり前のことです。私は料理を作ることが好きですので、自炊は問題ではありません。最初も東京の高い物価に驚きました。三ヶ月へって、バイトの許可をもらいました。友達の紹介で家に近くのスーパーでバイトをして始めました。辛さもあるが、自分の給料でパソコンを買って、満足感もいっぱいあります。日本へ来る前に、私は自分が将来何をしたいのか、どんな生活をしたいのかははっきり分かりませんでした。日本へ来て、視野も広げていて、自分の夢や目標が現実と遠く離れないために頑張りたいです。

学校のおかげで、この留学経験は私の人生における重要な思い出になりました。ここで、この一年間にお世話になった先生たちに感謝の気持ちを言い現れたいです。「先生、本当にお疲れ様でした。そして何より、本当にありがとうございました」。去年最初の自己紹介で、「皆さんと一緒に有意義な一年間を過ごしたいです」ということを話しました。今はこのような有意義な長いようで短い一年の留学生活を通じて、自分を変えて、私の人生にとってかけがえない宝物として心に収蔵して、みんなからの勇気を持って、前に向けて進んで行こうと思います。

日本留学生活：一生の思い出

河南大学 胡 書 韻

留学することになり、荷物をリストにして留学の支度を始めた。23kgのケースを2つ持って成田空港に到着した際ははまだ記憶に残っている。初めて異国に足を踏んだ時の不安や緊張は、今思い出してもドキドキする。迎えに来ていただいた桜井先生とほかの留学生たちと一緒に寮へ向かっている時、バスの窓から外を見ながら、「Hi! 東京!」と心の中で呟いた。

第一印象は何もかもが中国と違う。私はどういう風にこの国で1年間を過ごすのか。また、この1年間どんな人に出会うのか。不安が広がりながらも、期待も抑えられなかった。

1年間はあっという間に経った。日本語を身につけただけでなく、日本文化も身を以て体験してきた。「日本に来てびっくりしたことは何?」と何回も聞かれたが、「親切さ」といつもこう答えた。どんな店に行っても、店員さんが微笑みながら、「いらっしゃいませ」と元気に言ってくれるのだ。日本に着いたばかりの頃、自炊するので、お鍋を買いに行った。ある家電製品の店に入って探してみたが、見つからなかった。当時はまだ日本語に自信がなくて店員さんに聞けなかった。店に出ようとしている時、店員さんに声をかけられた。お鍋を買おうと知ったら別に店の悪いではないのに、店員さんが謝ったのだ。結局その店にお鍋は売っていなかったのだが、私がお鍋を買いたいことを知ると、店員さんあ別に店の過失でもないのに誤ったのだ。私が店を出た後、その店員さんは追いかけてきて、〇〇という店が取り扱っているかもしれないと教えてくれた。しかも、どう行けばいいのかも教えてくれたのだ。店員さんがこんなに親切に対応してくれるのにびっくりしたが、アルバイトを始めた後、なぜ店員さんがいつも優しくしてくれるかがわかるようになった。お客さんが「ありがとう」って言ってくれるからだ。お客さんが微笑みながら「ありがとう」って言ってくれたら、どんなに疲れていても嬉しくて元気を出せるのだ。

そういえば、日本でのアルバイト経験も一生に忘れないことである。メニューを覚えたり、接客用語・接客マナーを身につけたりするのは大変苦労した。飲食店のホールの仕事なので、大事なことは接客だ。最初はお客さんの注文さえ聞き取れなかった私だが、今はちゃんと一人前になってきた（店の先輩にそう褒めていただいた時の嬉しさは今でも覚えている）。

この1年間、日本のいろいろな観光地にも行ってきた。一番印象に残ったのは大阪・京都の3日間である。その3日間は気温30度以上で、日差しも強かった。日傘をささないと耐えないほど暑かったが、それにもかかわらず楽しんで来た。大阪で有名なたこ焼きやもんじゃ焼きも食べたし、唯一無二の清水寺、金閣寺など京都の代表的な観光地も行ってきた。一番感心したのは京都のバス停である。時刻表がとても詳しいし、バスの接近情報も見られるのだ。Wi-Fiサービスも使えるらしい。これは中国で聞いたこともないものだった。日本での旅はきっとこれからの人生の宝物になると思っている。

レポートを書きながら、この長いような短いような1年間を振り返ってみた。多くの人に会い、様々な体験をして思い出ができた。その思い出や写真はかけがえのないものになると思う。最後に、留学生生活を満喫できてよかった! 帰国時期になったが、きっとまた来ると思う。また、日本!



東西大学校

日本文化研修生の報告



k568836 www.fotosearch.com



日本文化研修に参加して

東西大学校 キムスクジン

日本での4ヶ月語学研修参加は私のことを成長させてくれた。語学研修を目の前に置いた私は(4ヵ月間)の日本の生活を想像しながら恐怖に震えていた。「自分が果たして上手くできるのかな」とずっと考えれば自信がなかったからだ。でもドキドキする気持を持って皆と日本に行った。

日本に到着したときの日は今まで忘れない思い出になった。空港に迎えに来てくださった先生と挨拶をしてこれからの予定を聞いた後に「本当に私が日本に来たのか」を実感したし、友達との協同力のおかげで仕事がだんだん上手くできて怖い気持はおろかときめきと期待でいっぱいだった。私の人生で最高の入学式だった「大正大学の入学式」も忘れない。

韓国とは違い入学式文化で、みんな断定的な洋服を着て学校宗教な仏教の形式によって、入学式が行われた。私たちまた1年生に戻った気持をもって楽しく参加した。その後日本での学校生活が始まった。韓国語を全然使用できなくて苦しいかなと思ったが友達と先生たちのおかげで授業を聞くことには全然問題がなかったむしろ韓国では学ぶことのできないたくさんのことを実感して学んだことができた。

そして大正大学で準備してくれたさまざまな語学研修プログラムのおかげで日本人の友達と鎌倉に行ったり東京江戸博物館にも行ったり歌舞伎の観覧まで、本当に大切な経験をすることができた。日本で生活をしながら一番大切な思い出に残ったのは「縁」だと思う。大正大学の多くの先生、日本人の友達をはじめ多くの新しい友達までとても大切に感謝している。皆と研修体験が終わった後に飲み会も行ったり私たちの寮に遊びにくれたし、修了式の日皆泣きながら「また会おう！」と約束した。この大切な縁が切れないようにすることだ。

もし私が大正大学研修に来なかったら、大切な縁を会えなかっただけでなく、私の20代も回し車のような退屈な日常を送ったのかもしれない。今回の語学研修を通じて私は自分の将来に対する深く考えることができたし私が何をしたいのかも知った大切な時間だった。短い、長かった4ヵ月間の思い出を忘れないで大事にして素敵な社会人になることができるよう、



日本文化研修に参加して

東西大学校 ジョン・ユンヒ

東西大学を3年間通いながら1学期ごとに正大学に行く申請者を募集する際にも私とは距離が遠い話だと思った。2年生になってから複数専攻で経営を選択して日本語より経営単位をより多くかかる必要があったからに日本語勉強も自然にしないようになり、さらに、カナダに留学も行って来て日本語がぎこちないことまでした。

こんなふうにはいけないと考えているところに母が4ヵ月間でも日本に留学に行ったらどうと提案を受けてじっくり考えたものの、日本文化も体験し、何よりも日本語を忘れてしまうのがもったいなくてまた始めてみようという覚悟で大正大学に申請をすることになった。日本語勉強をあまりしなかったという考えに行く前1ヵ月間でも会話塾にも通って熱心に勉強したが、不足した状態で日本に行くようになった。カナダでは一人で生活して人間関係は気を使わなくてもかまわないとたのみに団体生活をするようになるから人々とうまく過ごせるか、日本語勉強はよくできるか恐怖が大きかった。

幸い私と一緒に来た人たち、みんな良い人たちで、学校に迷惑になっていくほどの大きな問題は起きなかった。東京は見ることも多くて、人たちもいっぱいあるし、おいしいものも多かった。何より電車で簡単に行くことができ本当に便利だった。

日本は韓国と違って1時間30分間授業をして最初は適応できず、久しぶりに聞き日本語の授業と少し混乱でて適応しているが、1ヵ月かかったようだ。そしてその後、ゴールデンウィークがいるためにずっと休んでしまってやっと適応したのが最初に戻って再び適応しなければならなかった。そんなに忙しい毎日が通り、適応がなる頃、漢字試験を受けることになったが、一生懸命に勉強をしても点数がめちゃくちゃで、落胆した。

多分私が日本にいた時最も大きな悩みの種が漢字試験だったと考えられる。期待より低い点数を受けた後に次の試験の時はよりよい点数をもらおうと約束して一日に5単語ずつ根気よく覚えて書いて読んだ。とうとう3度目の試験を受ける日とても緊張して覚えたことも全部忘れてしまいそんな不安感が大きかった。最善を尽くして書いたけれど試験結果は期待にはるかに離れた。

私にとっても失望しており、私が頭が本当に悪いことを悟った。他の子たちは、1日だけ勉強しても覚えるには、現実残酷だ。なぜこのような結果が出るだろうか私なりによくよく考えてみると試験範囲が広くて暗記するのが本当に多いのもあり、この時まで短い時間の間、漢字を覚えたことがなくて習慣ができなかった。

他の子たちは専攻が日本語だから漢字を見る機会も私より多く、今まで勉強したものであり、私とは開始から異なるものだった。それでしばらくスランプだったが、大野先生が相談もしてくれて先生が私が最初に来た時と今と比べ、どれだけもっと発展した姿を見る試験点数だけを見て成績を及ぼさないとしてやっと心をかむことができた。

そんなにうまずたゆまずに漢字の勉強をした結果、試験の点数は少したが、点数が連騰し、最初は漢字の勉強がとても難しく覚えて悔いでしたが最後には初めて見た覚えやすくて覚える時間も早くなって一層容易だった。このように私が発展する姿を自ら感じた貴重な経験もした。

大野先生だけでなく文学先生、漢字先生、英語先生も不足した日本語の実力で言っても一度も引き上げ書かなくて最後まで私の話に耳を傾け上げて感謝している。おかげで自信を失わず、日本語の実力を増やしていくことができたようだ。

学校から送ってくれた鎌倉、哀悼博物館、歌舞伎公演のおかげで日本人の友達、中国人の友達を付き合える機会ができてとても良かった。みんなとても優しく親切で韓国に関心も持ってくれてありがたかった。一人だったら行ってみることもできなかったのと一緒にだったのもっと幸せで大切な思い出を作ってくれた学校にも感謝する。

4ヵ月は本当に短くて長いようだ。日本の生活がとても楽しくて、一方では時間が行くのがもったいなくて私がよく行った道を写真も撮って素敵な思い出も残した。出発する直前まで時間を浪費しないで熱心に過ごして後悔はない。この報告書を書いて今も思い出してみると、私の目の前に鮮明に残っているが、これも時間が経つほど忘れようになることを思うと少し悲しい。とても懐かしく感じそうだ。



「日本文化研修に参加して」

東西大学校 キム・ソウオン

大正大学での4ヶ月は韓国での1学期よりもっと短くなるのだろうと思って日本に来た。しかし、考えたことよりも日本での4ヶ月は本当に短くて早く過ぎてしまった。行く前の目標は私が東西大学の学生代表としてよくすること、そして皆で仲よく過ごして7月25日に無事に韓国へ帰国することだった。代表としてよくしたのかどうかについては私に文句をいった学生がいなかったのが平均はしたと思う。そして、日本に行く前はほとんど顔だけ知っていたが、今はあの時よりもっと仲よくなって帰国して嬉しい。最後にどこか大きい怪我をしたり痛かったりした学生がいなかったのが本当に安心だった。あまり大きい問題もなく過ごしてくれて皆に本当に感謝している。

留学をすることはただ身だけ行けばいいと思ったが、提出しなければならない書類が多かったし、パスポートとビザの申請、健康診断など準備するべきなことがたくさんあった。大正大学に行っても学生証を作ったり、また健康診断を受けるなど授業が始まる前にもするべきなことがまだ残っていた。

この全部を自分一人でしたら大変だったと思うが、先生たちが色々神経を掛けてくださって何も問題なくすることができた。そして、我々より1学期早く来ていた秋学期の学生たちも道の案内をもらったり、知らないことも教えてもらった。秋学期の学生たちと一緒に授業を受けてお互いにいい刺激を与えたと思う。

最初は授業の難易度について 難しいと思ったが、難しかったほど皆の日本語のレベルがアップしたと思う。大野先生の授業では本文を読んで色々な話をしたり、本文にでた文法を使って書いて来た例文を黒板に縦書きで書いたり、これから大学を卒業したら就職をしないとできないのでそれに関する授業があった。

山内先生の授業では文化というのはなんだろうについてたくさん話をした。先生の説明を聞いたり、日本文学作品の一部を読んだ後討論をしたり、映像を見たり、高校生との出会いをしたりした。主に文化と言語に対する話をしたが、特に印象に残ったのは「ものがあるから名前があるのではなく、名前があるからこそものがある」ということだった。世の中にはたくさんものがあるが、人に大事な意味があるものには必ず名前があると聞いたのは新鮮に近づいた。

田村先生の英語授業と漆先生の漢字授業は一周に一回しかなかったけど、英語を日本語で学ぶ面白い経験だったし、忘れていたことを習って助けになった。英語の授業もそうだったが、漢字の授業は我々の水準に合わせて、漢字を面白く学べるようにしてくださった。全体的には日本語で授業を取りながら質問や発言をすることは難しかったけどどんどん慣れてきた。

授業の以外にも鎌倉研修、江戸博物館の見学、東京国立劇場での歌舞伎観覧など日本の文化を経験する機会を提供してくださって感謝している。そして、プログラムをする時に交流会の日本人の友達も一緒に参加してくれて、皆で楽しく遊ぶこともできて楽しかった。韓国人、日本人、中国人、ドイツ人の学生が元気に楽しくて仲良く過ごすことができたのは桜井先生や関係者先生たちが面倒をみてくださったおかげだと思う。

日本に行く前と今を比べて見ると4ヶ月前は小笹先生の指導下に事前教育が始まった時、初めて会った人がほとんどだったので、お互いに必要な話以外にはあまりは話さなかった。しかし、4ヶ月が過ぎた今はお互いに冗談もしながら楽に対話ができるようになった。10人の兄弟姉妹を得たみたいで個人的にはとても嬉しい。これからも大正大学で習ったことを忘れず、大正大学で出会った縁も大切にしながら、皆との関係も大切にして仲良く過ごしたい



日本文化研修に参加して

東西大生校 イ・オンジョン

4か月間の語学研修は短くて長い時間だった。色んな国の諸国の人々もあって韓国の様々な地域の人々と出会い、彼らとそれぞれの文化について、ひいては人生について話したのが最も印象に残っている。



そして私が語学研修を無事終わることができたのは大野先生の徳が大きい。先生のおかげで日本語能力がかなり向上し、授業時間中の発表とか参加しやすいようにしてくれたからもっと早く日本語を習得することができた。



初めて漢字試験には半でほぼ最下位だったが、最後の漢字試験では2倍の点数が上がって、本当に嬉しかった。有終の美をおさめたと思う。

日本の生活面に、最初は色々韓国とは違って狼狽したことがあったが、よく適応するようになって日本の色々な観光地を回りながらよく楽しんだようだ。



寮で他の学校なんだけどいい友達を会うことができるようになって本当に嬉しい。その友達は一学期の先に日本に来たから日本の生活や学校の授業など、多くの援助を与えた。

私だけ違う専攻だから最初には授業を無事終わることができるかと心配もなったのに周りの友達がたくさん手伝ってくれて本当にありがたく思っている。

海外での初留学だった。本当に満足だと思っている。日本で会ったともだち先生たちみんなに感謝する。日本のイメージがさらにもっと良く私に近付いた。また機会があるならば、再び日本に行きたい。

日本文化研修に参加して

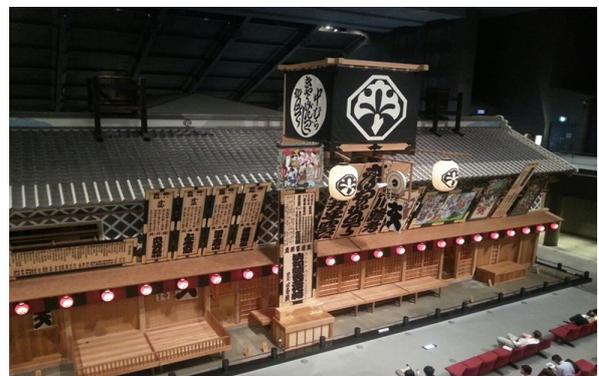
東西大学校 姜 垠至

3月から始まった4ヶ月間の大正大学への研修が終わった。私にとって初めての寮の生活だったし1ヶ月以上海外にいったことがなかったから、最初はすごく緊張したし不安だった。いかも今度一緒にいったみんなは一度も見たことない人ばかりだったので怖かった。でも初めてのわたしに皆優しくしてくれたし大正大学でも留学生のためにすごく気にしているものすごく感謝した。私はの日本語は5年ぐらい勉強してきたが、それは本だけの日本語だったし実際の日本人とは話したことがほとんどなかった。今度日本に行って、日本人と話したかった。

できるなら部活動もしたかったが、私が入りたかったのが 弓道部のお金の問題でやめといた。帰国して考えると、やっぱりほかの部活に入ったのが日本人の友達を付き合うのに役に立てると思う。大正大学の研修は、まず、すべての授業がとても面白かった。小野先生の授業は説明も易しくて日本語が苦手でも分かるようにしてくれた。そして単純に本を読みながら書くのがすべてじゃなく、みんなと話しながら作文もして全体的な日本語実力がアップするように授業が進む。日本語単語の授業も日本で使う、でも読み方が違って外国人が間違いやすい単語を、いろんな話をしながら面白くしてくれた。

そして、大正大学でいろんなところへ見学しに行って、日本の文化を見て、勉強してすごくよかった。私は元々お寺が好きで鎌倉に行った時にも興味深かったが、やっぱり一番記憶に残るのは歌舞伎をみたことだ。歌舞伎こそ日本の文化だと思ったから、日本語の勉強を始めてからすごく見たかった。でもかぶきをの入場料が高くて行けないと思ったが、大正大学のおかげで行くことができた。紙をもらった時からものすごく期待していた。結果は大満足だった。

今度の大正大学の研修は、たとえ4ヶ月間の短い時間だったが、私にとって日本語能力が上がるのも分かって、多くの日本の友達を付き合い嬉しかった。もし今度にもこのような研修があったら、もう一度行きたいと思う。



日本文化研修に参加して

東西大学校 任 孝

3月が終わるころ始まった日本文化研修は初めての多くの不安と楽しみで始まりました。私は皆と違い「蔚山(ウルサン)」で住んでいるので朝早くバスで空港まで行きました。その日は矢鱈と雨が降って日本に行けるのか心配しながら行きましたが何の問題もなく皆が久しぶりの飛行機だったので荷物で少しの戸惑いでしたがちゃんと日本に着きました。空港には桜井先生が向かいに来てくださって迷わずに寮に着きました。寮の初印象はきれいでしたが少し狭いと思いましたが狭いのは私とドンギルの部屋だけでした。

日本に来て一週間は学校には行く日がありましたが多くの時間があつたので皆が一人で動く前に私は皆を連れて色々な手続きをしました。皆が少しなれて動き出すと集まって何かをするのが大変だと思ったからです。こうしたおかげもあるし皆が疲れても残と着いて来てくれたので早く終わりました。その後は寮で歓迎会もして色々な人と知り合いになり一学期が始まる前に大正大学の新生と鎌倉に行ってきれいな桜や寺や仏像を見ながら何人か知り合いになりました。

一学期が始まり授業が韓国とどう違うか思いながら聞きました。英語の授業を除いて全部日本語で進められました。何人を除いては問題なく進められ山内先生の授業が皆は難しく思う人が多かったと思います。私は楽しい授業でしたが漢字の授業が大変でした。漢字がとても苦手だったので普段から頑張り始めました。おかげで漢字の試験は段々上手くなりました。それから日本文化研修授業で鎌倉や江戸博物館や歌舞伎を体験したのはとても良かったです。日本人の学生たちも参加して仲良くなったし初めて行く場所ばかりで楽しい体験でした。

普段は学校以外はばらばらに遊んだりしましたが誰かのお祝いや勉強のため集まってする事も多くありました。5月ごろ寮の事情で引越したり誕生パーティー開いたり川越に遊びの行ったり大正大学でしたお盆祭りなど今思えば楽しい日々が続いたと思います。

4ヶ月の短い間にお世話になった「みのや」と言う店が今でも浮かびます。500円で美味くてたくさん食べられる店は韓国と日本全部探してもあまりないと思います。それから「松屋」は近くて安かったので多く行ったし「天屋」の天井も良かったです。学食も東西大学に比べればレストランなので東西に帰ると大正の学食が食べたくなると思います。それから祭りの出店の食べ物も良かったです。日本は祭りが多くて全部行けなかったのが残念です。飛行機で1時間かかる近い国なのに食文化や色々な文化がこんなに違って韓国であの味を味わえないことや色々な文化を楽しめないのがとても残念です。

この研修で多くのものを体験し色々なものを学んで楽しい思い出にできるのは先生方や教員方々のお陰です。一番多く聞いた授業の大野先生から発音のことを多く直してもらいHの発音を皆が気をつけようとしています。ほかにも文法の使い方や日常生活のことや皆の授業とは関係ない質問を答えてくださって感謝しています。山内先生からは文化や言語の考え方を深く多様にするようにしてください皆との意見の共有の楽しみを知りました。田村先生の授業は実は私には一番難しい授業でしたけど楽しくしてくださって間張りしました。漆先生からは日常に使われるのに知らない感じを多く学び本を読む時多く助かっています。最後に桜井先生からは鎌倉や江戸博物館や歌舞伎に行くとき引率してくださったり伝達事項や必要なものを調べてくださったり誰かが怪我をしたときつだって下さったり多くの事のお世話になりました。大正大学の皆さん本当にありがとうございました。

日本文化研修に参加して

東西大学校 キム・ドンフン

4か月間、大正大学に語学研修は私にたくさんの経験と新たな視線を向けたきっかけになったようだ。最初は語学研修で大正大学に行くことになった時、非常に緊張してたし、行って何を学ぶことがあるかという考えがたくさんあった。それでも日本にある大学で先生たちも全て日本人のために語学のほうには非常に役立つものと思った。やはり4か月間、大正大学で習ったことが非常に多くの助けがなった。

文法と漢字に多くの弱点があったのか私は今回をきっかけにかなり多くの日本語能力が上がっていったようだ。授業で文法で例文をつくることと例文を黒板に書いてどこがどう間違っているか先生が教えてくださればそれを見て直した後、このような問題があった。また、漢字の単語テストのために本文にある漢字を覚えてみたら日本で日常生活する時に多くの助けがなった。最初にはとても簡単な対話しかできなかつたが4か月間、大正大学で習ったこと全てが私に大きな変革をもたらした。

その他に大正大学で種々な日本文化と歴史を見せるため、鎌倉や日本江戸博物館、歌舞伎を観覧し、メディアでしかみられなかった文化を直接体験したら本よりもっと有用な学習になったと思います。このうち一番記憶に残る日本東京にも博物館ですが、江戸時代のときから現在までのすべての日本の姿を見せているために本当によかったです。歌舞伎もかなりおもしろかった。日本に何回かは来たが歌舞伎を見るのは初めてだった。「果たして歌舞伎とは何だろうか?」という考えがたくさん入った、そこには学生たちがたくさん来ているためか、最初には歌舞伎が何か教えてくれてとてもよかつたし、その次の演劇で入ったが本当に演技も上手いし演劇の内容も良かつた。初めて見る歌舞伎だったが、本当によかつた。

そして大正大学における全ての授業が興味深いし、楽しかつた。東西大学でした授業とはだいぶ違って慌てたが、何日経ってから授業方式に適応しながら、韓国でやっていた授業方式とはたくさん違うし、日本で日本語で授業をしたのでかなり役になった語学研修だった。その他にも日本で生活しながら電車でいろいろな所を歩き回りながら遊んだりして食べ物を食べながら多くの文化的体験をしたが日本でしかできた体験なので本当に良かつた。

また、日本で自転車で通学しながら学校を通ったが本当に日本は自転車乗り非常に良い国だと思いました。韓国にも自転車に乗る人がかなりあって自転車についてたこともある。自転車で道路を走ってもいいが、日本とは違って、道路で走れば、通り過ぎる人たちがクラクションを鳴らしながら悪口をするために自転車に乗ることが極めて困難である。



日本文化研修に参加して

東西大学校 ウ・ヨンソン

私は幼い時からバケツリストとビジョンボードを作った記憶がある。時間が経つにつれ、その夢は少しずつ変わったが、いつも日本留学は抜けなかった。

今年大静大学で日本で語学研修を見ながらこの時まで断片的に知っていた日本とはちょっと違うということを知ることになった。日本は、メディアの影響で好ましくない視線とみられていて残念な気持ちになった。しかし、今回の研修によって日本人と対話をして、文化と歴史を知ってみると、以前よりも先入観が減ったと考えられる。

文化を理解しなければならないが、その国の人と対話が可能だという言葉が今回の研修によってよく知るようになったようだ。授業外の文化活動として鎌倉の海、歌舞伎鑑賞、博物館を通じて知った契機が大きいと考えられる。特に一番印象が深かった所は歌舞伎鑑賞だが、普段お芝居が好きで歌舞伎観覧がより意味のある文化体験と考えられる。

百聞は一見に如かずという言葉がある。日本では歌舞伎が有名と幼い時代から、よく聞いたことがあるが、いざ旅行をしたり留学をする外国人は、そのチャンスがありふれていないのが事実だ。授業をする時には韓国とは少し違う教育システムにちょっと不慣れな雰囲気だった。特に、文化の時間には自分の見解を原稿用紙に書くのが少し大変に感じられた。

注入式の教育を12年間受けていたが、不慣れな方式で自分の見解を書くよう言ったら、たぶんこのような教育を受けたすべての学生は難しいだろうと考えられた。文化授業の作文の時間で型にはまった事故がない私の見解を使うことが多く慣れた。客観式解答で行われた試験と記述式で出ても先生の見解が正解だった学生時代の時間がいたずらに感じられた。

「我が国もこのような授業をたくさん作れば、学生たちの授業の満足度がさらに高くなっていないのか？」と思う。韓国では本を中心にした勉強が日本に来てからは発表を中心の授業は実力向上に大きく役立ったと感じる。会話をする時知らなかったただし語が自然に出て日本の生活が慣れる頃に帰国をすることになって少し残念な気持ちになった。最初は4カ月の時間が遅く行くと思ったが、あまりにも急速に生きたようだ。

日本でもサークル活動をしながら本当に好きなことを取り戻したのも今回の研修を通じて得ることとなった宝としたい。時間に追われながら、いざ私がほしがっていたことをする余裕を忘れて暮したが、デチョンデ部で活動したのは本当に間違えない選択と判断された。

外国人学生と授業を聞くと、日本学生と接する機会が多くない。しかし、サークル人と親睦をしながら日本語をたくさん学ぶことになったことに感謝している。楽しむ勉強がまさにこのようなことだなと感じた。日本語を勉強してから数年この経過したが、今回の4ヵ月がこの時までの日本語勉強より、より意味のあるたと思われる。



日本文化研修に参加して

東西大学校 イ・トンジェ

今回の大正大学の日本文化研修の前、私の回りから反対の意見があった。私は元々2年生の時2010年に大正大学に行く予定だったが、その時は軍隊や他の問題があって研修を諦め、今年に研修に参加することになった。だかた回りの人に「今さら研修？ちょっと遅れたのではないかな」「4年生だったら就職の準備でもしなさい」のような話をよく聞いて研修の決定を悩んでいたが、結局研修に参加した。

4ヶ月の研修を通じて私はとても有益な知識を得た。研修の前、私は読解や本と書類などを読む時には別に問題なかったが、会話にはとても自身がなかった。頭には様々な単語があるが、会話をする時にはそれが口の外に出なかった。今回の研究に参加することになった決定的な理由は私のこの問題を改善するためだった。

授業の仕方はとても良かった。韓国と比べて全然違う授業だった。とても色々考えすべきの授業の仕方だった。大野先生の真面目で几帳面な授業、山内先生のまるで哲学の授業を取っているような気がする文化授業、田村先生の英語を日本語で翻訳して英語と日本語二つの勉強ができる英語の授業、中国の方の千先生の漢字と単語の海を泳いでいるような漢字の授業、全部とても良かった。

授業も良かったが、鎌倉、江戸博物館、歌舞伎劇場を訪ねる文化研修のプログラムもとてもいい経験だった。鎌倉で大きい仏像を見たり、江戸博物館で過去から今の日本の歴史の流れも分かるようになった。母国以外の国の歴史を勉強することもとても興味深いものだった。韓国では全然経験できなかった歌舞伎公演が私が日本で経験した一番いい記憶だった。独特な化粧方と話し方にとても興味があった。まだ機会があれば歌舞伎公演を見に行きたかった。

日本で経験した祭りもいい思い出になった。日本は「祭りの国」に呼ばれるだけあってとても様々な祭りがあった。学校で行われたお盆祭り、赤羽の馬鹿祭り、花火祭り、全部韓国と比べてとても独特な祭りだった。このように学校以外で経験できる色々なものがあってとても面白い研修生活ができた。

学校のプログラムのみならず学校で会える日本の友達と一緒に授業を取った中国とドイツの留学生との生活もあった。外国人と日本語で話をするのが私には独特な記憶だった。その留学生たちと寮と一緒にパーティをしたり、浅草、原宿、渋谷などに遊びに行ったり。新大久保で一緒に韓国の食べ物を食べたりしながら日本以外にも他の国の話も聞くことができた。そして私は一緒に研究に参加した学生とお互いにいい感情を持って付き合うことになって今回の研修は私にとってとても特別な研修になった。

今回の研修を通じて日本語の実力のみならず日本だけの独特な文化を経験した。そして今の韓日関係で日本人は韓国人が嫌いののではないかと心配したが、国籍に関係なく私たちに優しく近づいた日本の先生や他の日本の方のおかげでそのような偏見を捨てるのができた。とても来てよかった。私の生涯で絶対忘れない記憶だった。



日本文化研修に参加して

東西大校 ジョン・ジョンウン

4ヵ月間の語学研修は短かった。確かに語学の勉強はその国でしたほうがいい、4ヶ月間の短い期間だったけど日本語の能力が非常に上手になったと感じている。私はいつも日本語で話すことがうまくできなくて心配したが、今度の語学研修のおかげでその問題を解決することができた。この語学研修が私にとっていい思い出になったので卒業したら、ワーキングホリデーでまた日本に行って、もっと様々な経験をしたいと思っている。

私たちが大正大学に入学する前、先に来た留学生がいった。その中には他の大学で来た韓国人以外にも中国人とドイツ人もいて一緒に授業を受けた。その留学生たちは秋学期に来て勉強したので私たちよりは日本語が上手だった。その留学生たちに刺激を受けて一生懸命勉強した。日本は韓国と違って授業時間が1時間半だった。急に長くなった授業時間に慣れるまでかなり時間がかかった。日本での授業は先生と学生がコミュニケーションする時間の感じだったので授業を受けるのが楽しかった。

大野先生の授業は本にある文法で例文を作ったり、本文の内容を発表したりする授業だった。最初は作った文章が短かったけど授業を重ねてますます文章が長くなり、内容もいい例文を作ることができた。発表もたくさんした。発表をするたびに聞く話だったが、先生は私が発表する時、発声がとてもいいと仰った。私はいつも大きい声で発表することを褒められたので日本語で話すことについて自身を持つことができた。いつだったか私たちが日本の方言を学びたいと言ったことがあったが、その意見を聞いた先生が関西弁の授業もしたことがある。そして、ユーモアの大会を開いたこともあった。本当に授業が楽しかった。他の先生の文化、英語、漢字の授業もあったけど私の記憶に強く残っているのは大野先生の授業だ。もちろん、他の授業も面白かった。文化の授業は哲学みたいな授業で、授業の半分も理解できないほど難しかったけどいい勉強になった。漢字の授業ではいつもクロスワードパズルを解いた。そのパズルにある有用な語彙をたくさん学ぶことができて本当に日本語の勉強に役に立つ授業だった。英語の授業はあまり難しくない本だったので心配なかった。英語を日本語で翻訳してみる面白い経験になった。

大学で勉強ばかりしたのではない。文化研修として鎌倉と東京江戸博物館に行ったり、歌舞伎公演を見たりした。その文化研修に行く時はいつも日本人学生も一緒に行ったので日本の友達を作り機会になった。鎌倉は韓国のキョンジュみたいな感じだった。高德院にある鎌倉大仏が記憶に残る。その大仏に入ることもできて入ってみたが何もなかった。江戸博物館では歴史授業で学んだ昔の日本人の生活や建物などをもう一度確認することができた。人力車に乗ってみたり、部屋に入ってみたり、面白い時間だった。歌舞伎公演も見えた。私たちが見た歌舞伎公演は歌舞伎教室で、私たち以外にも大勢の生徒たちも見に来た。歌舞伎公演は特別な内容はなかったけど、舞台演出がととてもすばらしかった。大学のこんなプログラムは私たちに幅広い視野を持てるようにしてくれた。

5月に家族が東京に遊びに来たことがある。私は家族の旅行のために観光ルートを一人で下見した。その後、一緒に旅行して家族は問題なく帰った。私がツアーガイドになって努めた3日間だった。家族も満足したし、私も親孝行した感じで本当に嬉しかった。その時、私が日本語を勉強していることについて誇りを感じた。その経験でもっと一生懸命日本語の勉強することになった。

最初は語学研修に参加するのを迷ったが、今は語学研修に参加したことをとても満足している。私にとって今度の語学研修は私の弱点を乗り越えるための挑戦だった。たぶん、語学研修に参加しなかったら、つまらない大学生活を過ごしたと思う。いい経験もたくさんしたし、前よりうまく日本語で話せるようになって本当に参加して良かったと思う。



日本文化研修に参加して

東西大学校 洪 東吉

今になって思うと楽しんでばかりで長かったとは言えない4ヶ月であった。3年生になってやっと行けるようになったこの研修は実に私にとっては得だったと言い切れる。素直に言うと私は行く前に受けたjptの模擬試験を受けた時、700点を越えたと言う結果で自惚れていた。それを悔い改めたことができた。周りの中国の留学生や寮に来たハーフの日本人達がどうやって大正大学に来てどの様にバイトをし、勉学に励んでいるのか、そして、日本と韓国の関係と未来の方向性、互いの国の文化を語ったのがきっかけであった。

まず、大学が施してくれたプログラムの中で江戸東京博物館、鎌倉、歌舞伎公演は忘れられないだろう。最初に鎌倉で小説家達の思想や仏像や寺の壮大さを感じた。それは日本語が下手で説明を聞き、理解出来なかったとしてもだ。そこでは私達、留学生のために指導してくださった桜井先生と学生達のおかげで集団に混じることがもっと容易くなり、今の私達の関係が成立したと思う。そして、江戸東京博物館では中国の留学生達とダニエルというドイツ人の留学生達と友情を深めて、博物館の観覧して展覧品に関して各国の考えの誤差や独特な見解を聞く事ができた。そして、人力車に乗って皆と写真を撮ったりして生真面目な態度を親しい関係に変える事が出来た。そして、文化体験の一番の思い出だった歌舞伎公演は今でも思い出せるぐらい頭の中で鮮明に残ってる。その理由は解説者の説明と役者たちの演技がただものじゃないと思うくらいに分かりやすく立派だった。『お爺さん、お婆さん』と言う劇の上演は実に素晴しかったと思う。それに比べ韓国はどのような劇があるか、そこについて私はあまりにも浅はかに一握りにもならない知識しか持ってないと気づかされた。自分の国に関しては何も分からないくせにこのように日本の文化を見てまた忘れるだろうとなりたくない自分を見つけた瞬間であった。愚かな自分の一部分を変えるきっかけになるかも知れない大切な研修であった。

そういえば、私達は授業を受ける時、大野先生と山内先生、田村先生、チイ先生には頭が上がらないくらいに色々な知識を教わった。日本語だけじゃなく、例文を作るとき、日本の経剤と就職と面接だど、色々な分野に対して自分の見解の違いさやもっと深いところまで入り込んだ。それはきっと未来の私達に密接する関係があるに違いないと感じた。その上、文化は何か、言語とは何かの当たり前な考えしか持たなかった私達にはいい刺激になるくらい、奥深くて考察と言う経験を積んだ。それは何よりも勉学に励むと忘れては行けない感じがした。先生達には本当に大切なものをもらったのだ。

最後の留学生全員が参加した大学での盆踊りは夏の鮮やかで今でも終わらせたくない思い出だ。お婆さんたちに学んで下手で真似したとしても、陣の中に解け込み、中国の女の子たちと踊ったアンパンマンとかの歌の踊りは踊る皆を笑顔にした。今でもその顔は輝く光って見える。

そして、韓国のセウォル号事件のため、大正大学が力を尽くしてくれろと女の坊主さんに聞いた。韓国の日本に対して先入観と誤解を抱いている人たちを思うと、恥ずかしくて、面目がないから申し訳なかった。

このように自分の愚かさや甘さに日々気づき、留学生達と大正大学の学生達と毎日楽しく勉学に励み、美味な料理を味わい、新しい文化と風景を目の前にするのがたった4ヶ月であると短すぎる時間であったが、だからこそ、何よりも大切な時間だと確信する。今の私達は凄く大事な物を学んで帰って来たと言い切れる。日本人だけじゃなく、色々な外国人達と一緒に考えながら、先入観に拘ることなく、日本の社会や文化、経済、そして就職や面接みたいに私達、日本語を学ぶ人達に未来の一片を見せてくれたのが、この研修の真の目的だと思う。筆者である私はそれを気づき、身に覚えるだけで大きな得を得たと思う。私達の後輩になり、大正大学に留学する人達には『怯えず進め。そして、見るだけでいいから、自分の世界をもっと広げて来い。』と言いたいものだ。

日本で学んだこと



東京都豊島区西巢鴨3-20-1

教務部学修支援課
国際係

HP:

http://www.tais.ac.jp/student_life/abroad/index.html



留学生は日本の文化に触れ、日本語を学び充実した日々を送っていたことと思います。日本は、東日本大震災からの復興を目指し、日々努力をしています。日本と中華人民共和国、日本と大韓民国、日本とドイツ共和国との関係を留学生たちは親善大使として大いに活躍してくれたものと信じています。これからも、多くの若者が行き来できる関係を保ちたいと思います。

それぞれの国に戻った後も、大正大学での学習を思い出し、自分に問いかけをしてください。「今のあなた方を支えているのはだれですか？」

いつか、みなさんからのメールが届くこと楽しみにしています。

